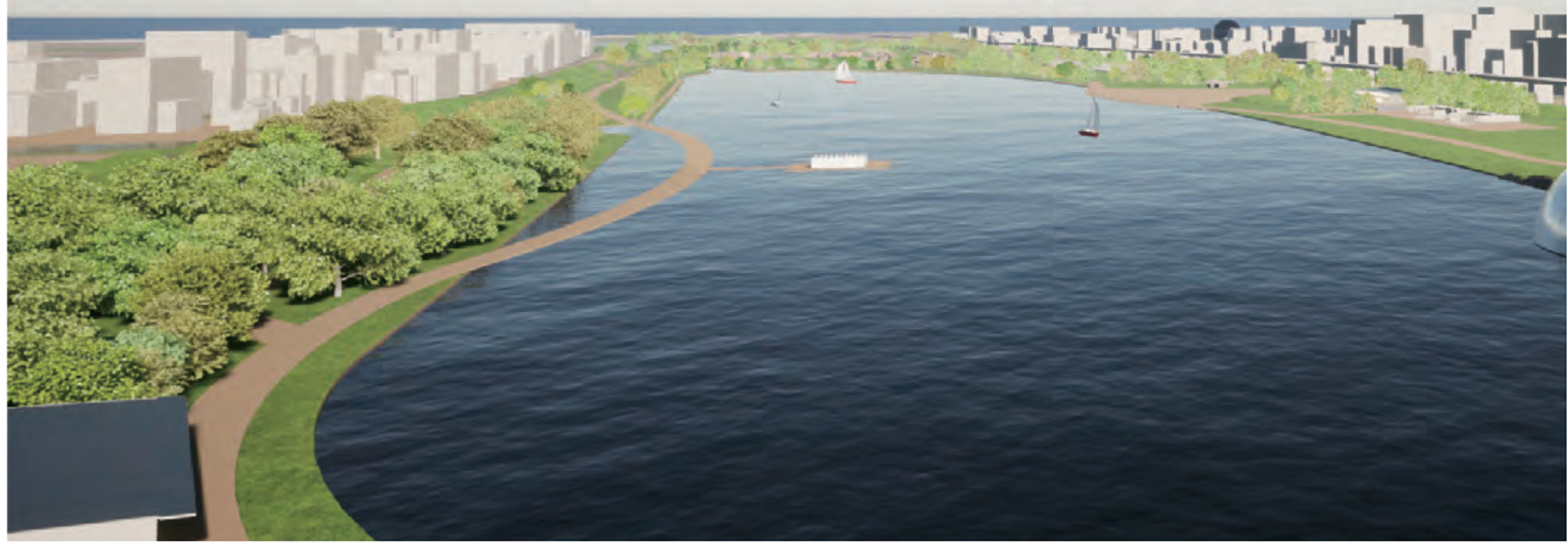
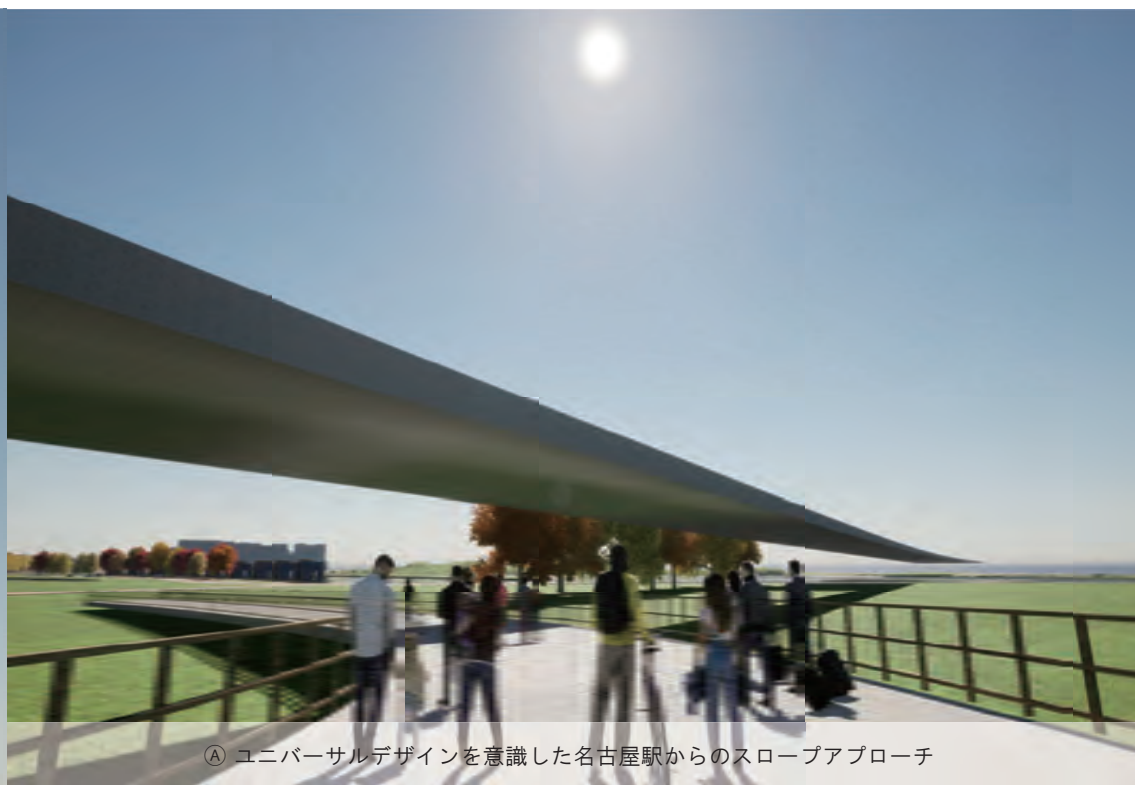


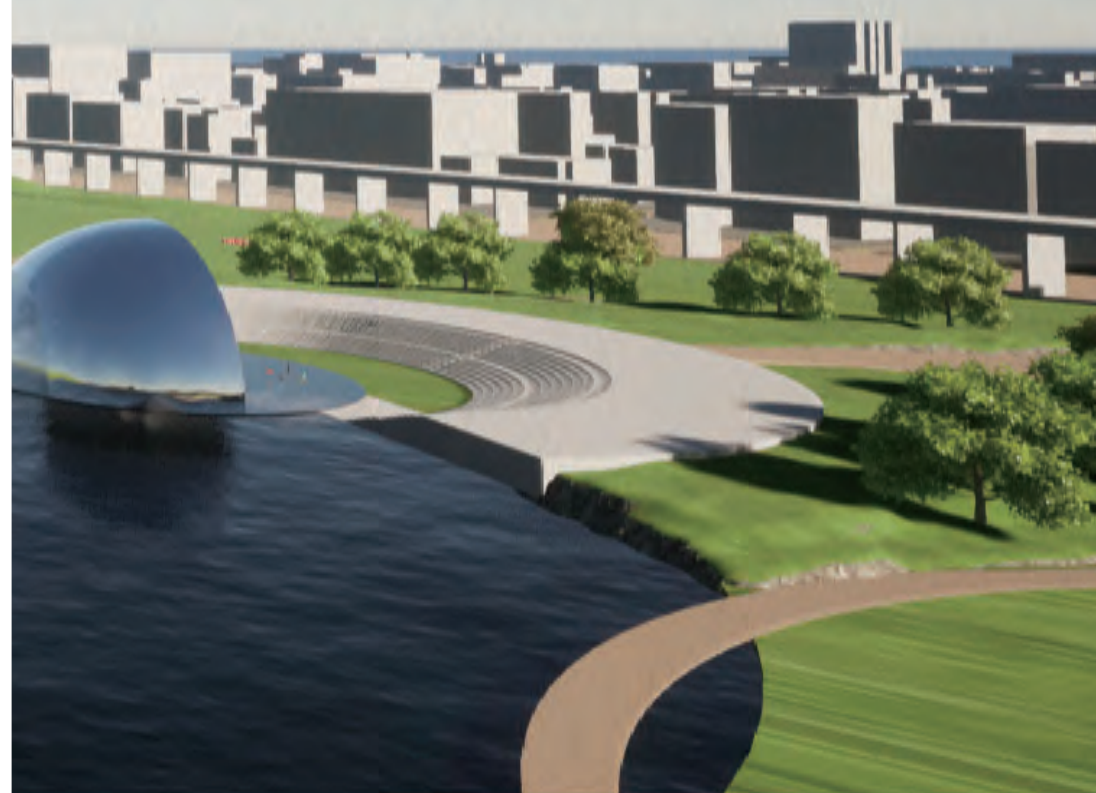
# 名古屋文化再生

～ウォーターフロントによる街づくり構想～





① ユニバーサルデザインを意識した名古屋駅からのスロープアプローチ



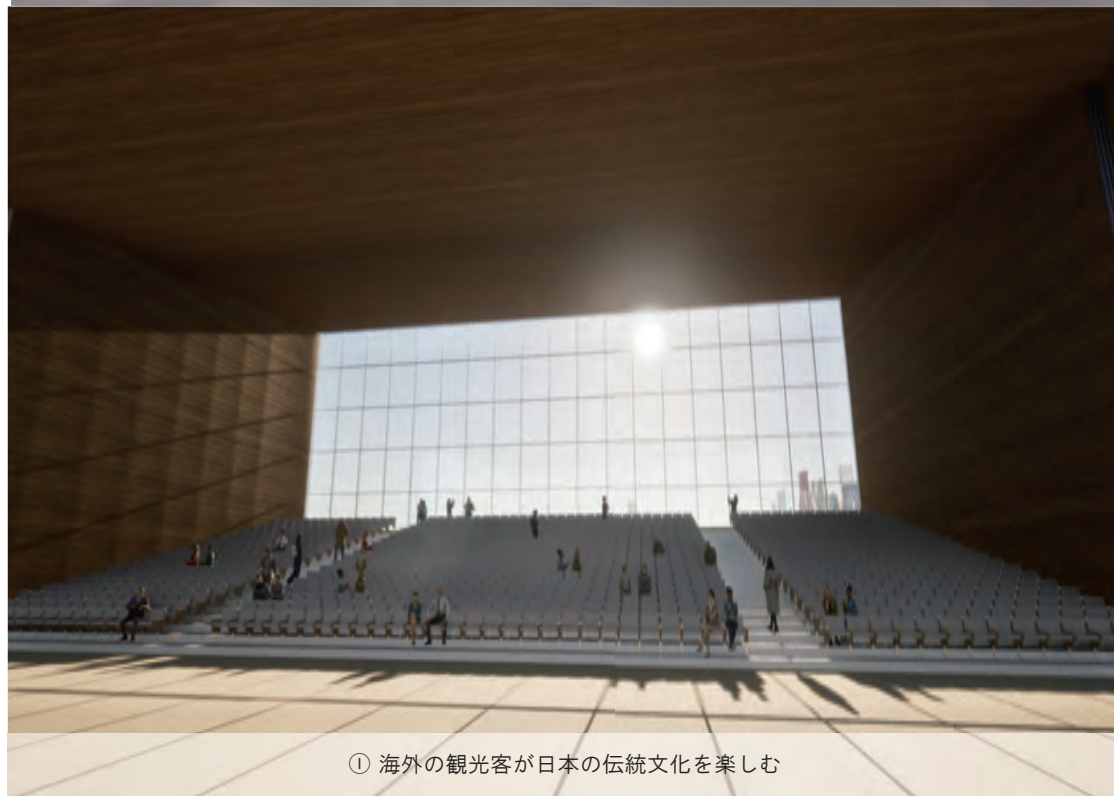
② 雄大な景色を背景に世界の音楽を楽しむ



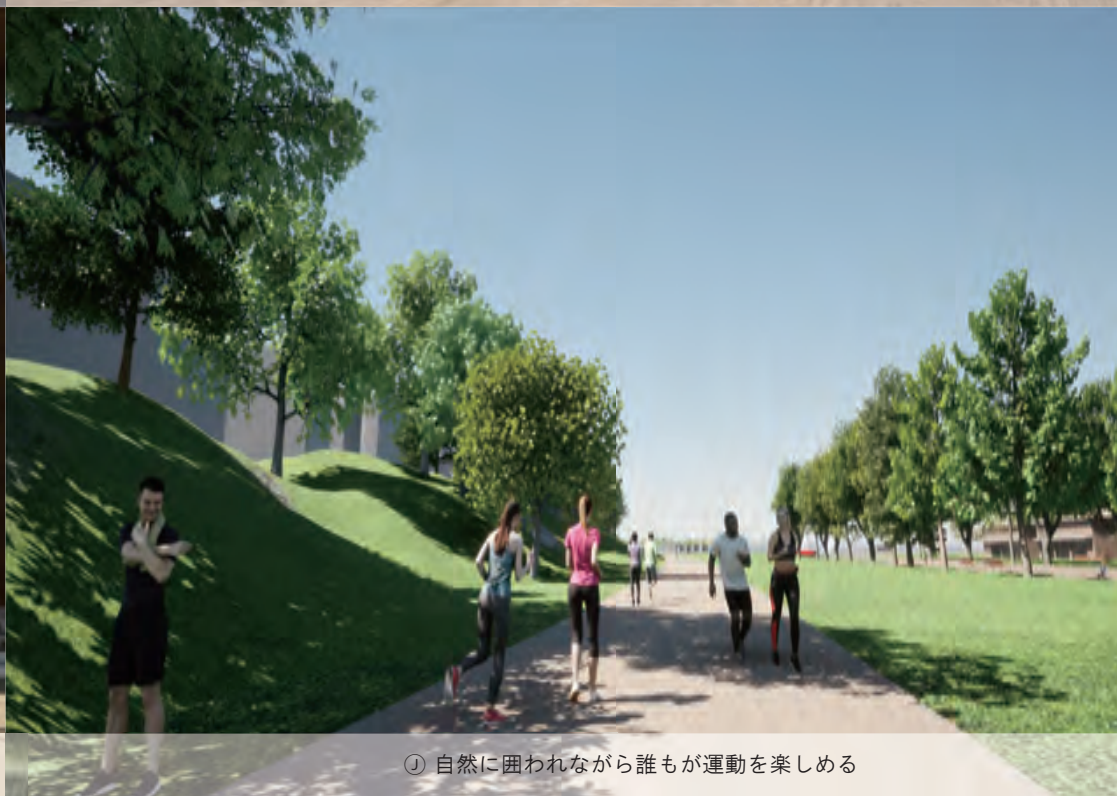
㊦ 感動的な夕日を体感



㊦ 誰でも利用できるフリーステージ



㊦ 海外の観光客が日本の伝統文化を楽しむ



㊦ 自然に囲われながら誰もが運動を楽しめる



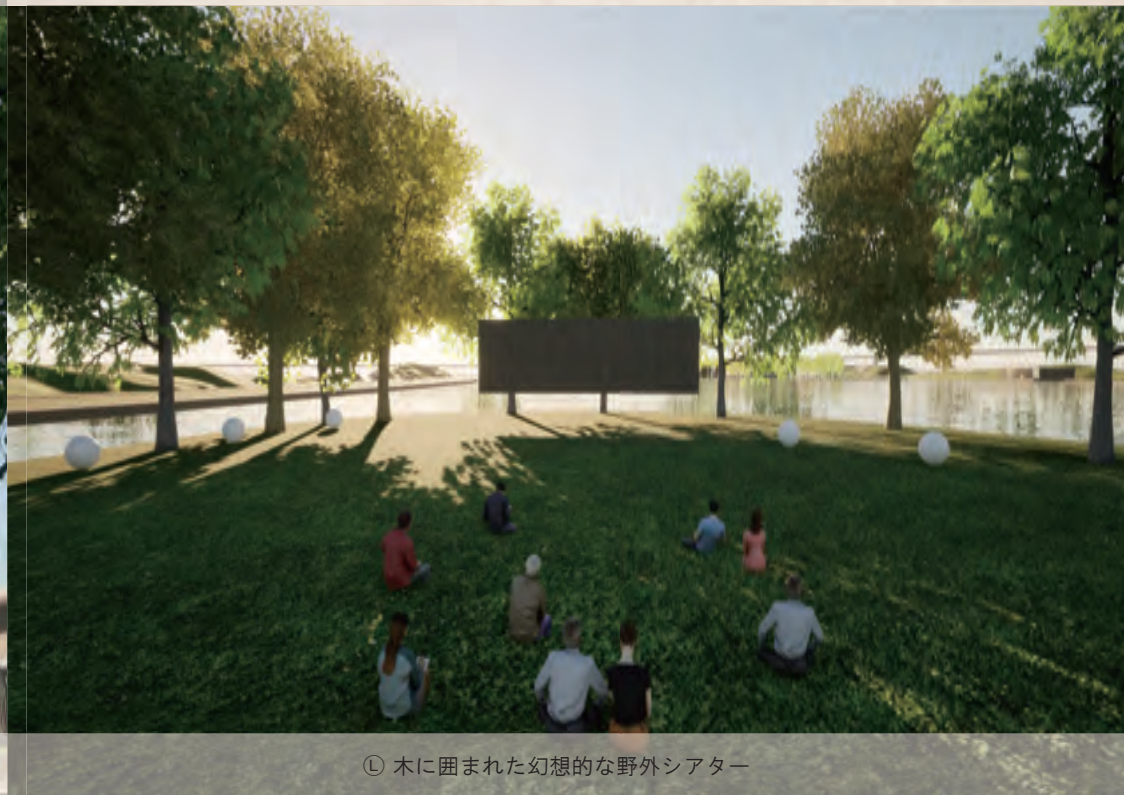
㊦ 子供たちが安全に遊べる浅い水辺広場



㊧ 長屋形式の繋がりのある空間



㊨ 川を中心とした憩いスペース



㊩ 木に囲まれた幻想的な野外シアター

# 設計提案

## 計画対象エリア



〈愛知県名古屋市中川運河北端から鶴舞公園〉  
自然とのつながりや周辺地域との機能連携を考慮するため久屋大通公園・中川運河・堀川・新堀川を含めて検討する



- ① 南北ストリートパーク
- ② ウォーターフロントパーク
- ③ 中川運河エリア
- ④ 堀川エリア
- ⑤ 新堀川エリア

①～⑤の提案ゾーンの基本構想を示し、②については各施設的设计を行う。

## ②ウォーターフロント提案



庄内川を名古屋城西の堀川に繋げることで、ウォーターフロントと中川運河・堀川・新堀川にきれいな水を流す

↓  
持続可能な環境を安定させる

アクセスダイアグラム



主要駅からのアクセス

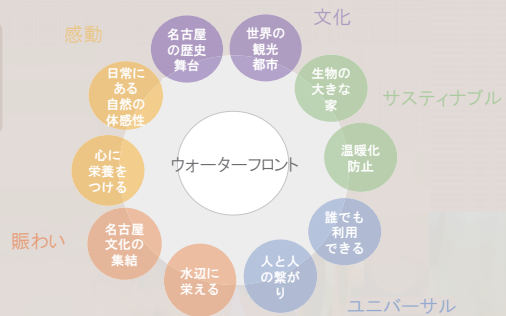
名古屋駅	徒歩20分
栄駅	徒歩12分
鶴舞駅	徒歩0分
金山駅	徒歩22分

---名鉄・JR

---地下鉄



計画コンセプト



### ①南北ストリートパーク(久屋大通公園)

現状



MOTHERHOUSE付近



TOMMY HILFIGER付近



ボロラルフローレン付近



道路側からはテレビ塔の公園施設内の  
 ①外観は見えるが  
 ②公園内部が見えず裏として表現されている。



COACH付近

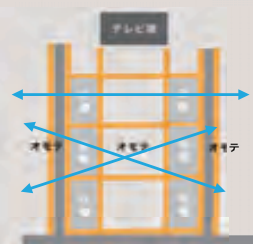


FURLA付近



TATRAS付近

改善

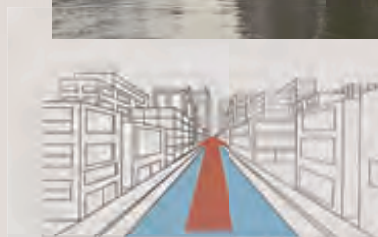


### ③④⑤中川運河・堀川・新堀川エリア

現状



改善



河川から  
200m  
低層化



川から200m圏内の建物を低層にすることで、「海の見える景観の確保」海からの水を取り入れ都市部の温度を下げることで「ヒートアイランド現象」の防止に繋げる



# 研究

## 【背景・着眼点】

「名古屋＝魅力がない」というイメージが全国的に定着しつつある。そこで、名古屋の文化に欠かせないシンボルとして、多くの観光客を引き寄せるような名古屋の街づくりをしたいと考える。

## 【研究目的】

尾張城下町時代の自然に囲まれ、人間スケールの魅力ある都市を把握し、この長所を現代の都市再開発に活かし都市再生を行う。

## 【研究方法】

文献調査

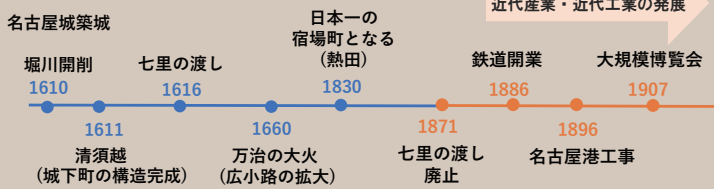
現在の名古屋の街並みと江戸時代の城下町の問題点と長所を比較する

調査1. 現在の名古屋の街の基盤の形成に関わる歴史の把握 (参考文献: <http://network2010.org/edomap>)

調査2. 尾張名所図絵から城下町と現在の街並み・人間の目線と動線・自然との繋がりを比較

## 調査1

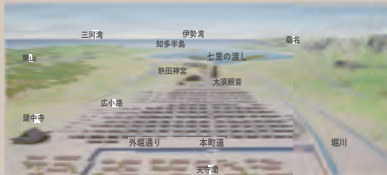
歴史の把握「江戸から明治の歴史」



### 名古屋を代表する繁華街へ

名古屋城から見た江戸時代の城下町

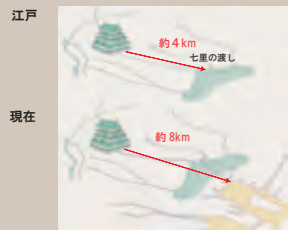
現在の名古屋城から見た南の都市環境



尾張城下町の天守閣からは城下の武家屋敷、町人街、大須、熱田、七里の渡しまでが見通せ、人々の暮らし・賑わいが見えるリアリティある感動的なヒューマンスケールの街が存在していた。その一方で、現在の名古屋城の南側は高層ビルが連立し、街の風景・その先にある海が見えないというビジネス優先の街並みとなった。

## 七里の渡しの変化

埋め立てられたことで海が遠くなってしまった



## 調査2

尾張城下町図絵と現在の街並みを比較



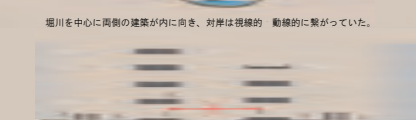
城下町	現在	城下町	現在
繋がっている	分断されている	川との繋がりが 賑わいも無くなった	建物の高層化
水廻り(浄水)と三河沿いに 表の広場が影射されている	土木的な仕様の形状 マテリアル	道の狭小化	段々景観
	建物の裏に川がある 川に背を向けている	人間の目線の交差がない	

## 結果・考察

城下町の長所

- 山、海、川、街が繋がっている  
(城下町が一日で歩き管理することが出来た・低層の建物・道路がないことにより)
- 人と人の交流が盛ん
- 周囲を五感で感じることが出来る
- 屋外・半屋外・屋内・半屋内に有機的に繋がっている

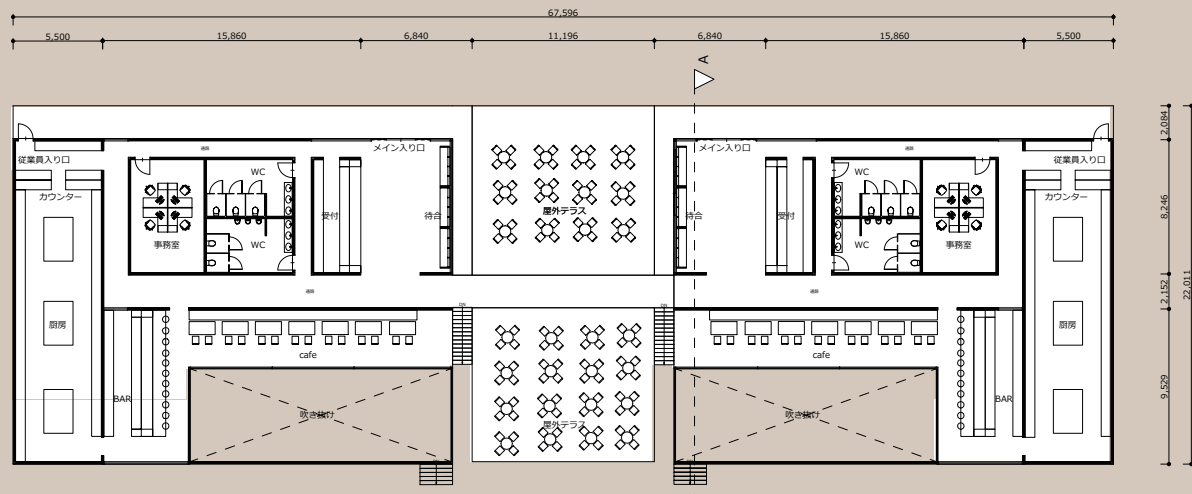
⇒ 人間スケールの街並み



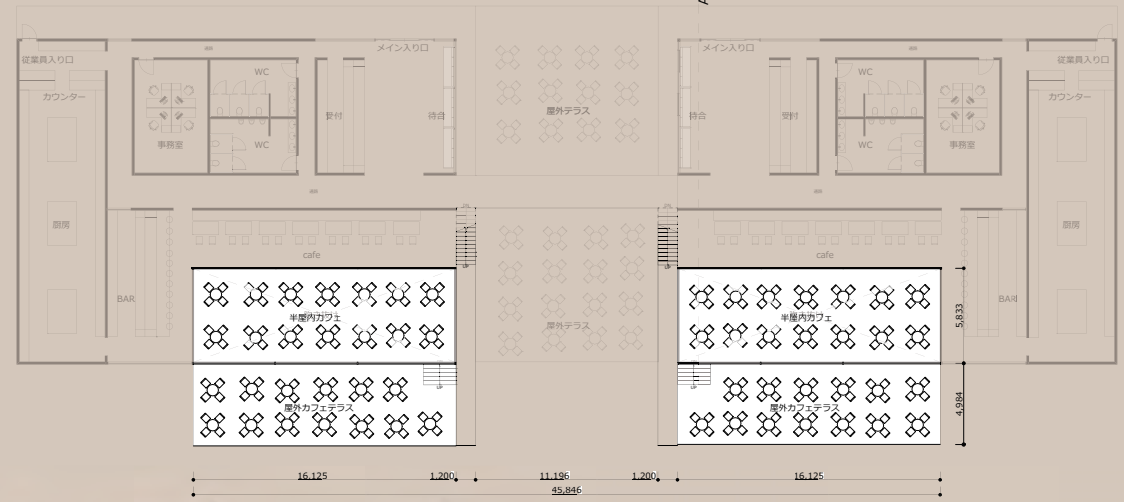
### 【現在の名古屋の街に取り入れるべき要素】

- ①クロス目線、クロス動線がうまれる  
オモテ・ウラの無い空間
- ②常に生活の近くにあった自然の体感性
- ③水辺に栄える娯楽、賑わい、宿
- ④人と人の盛んな交流・繋がりが  
オモテ・ウラの無い空間
- ⑤屋外、半屋外、半屋内、屋内が  
有機的に繋がっている
- ⑥感動・生命研が芽生える場所の生成

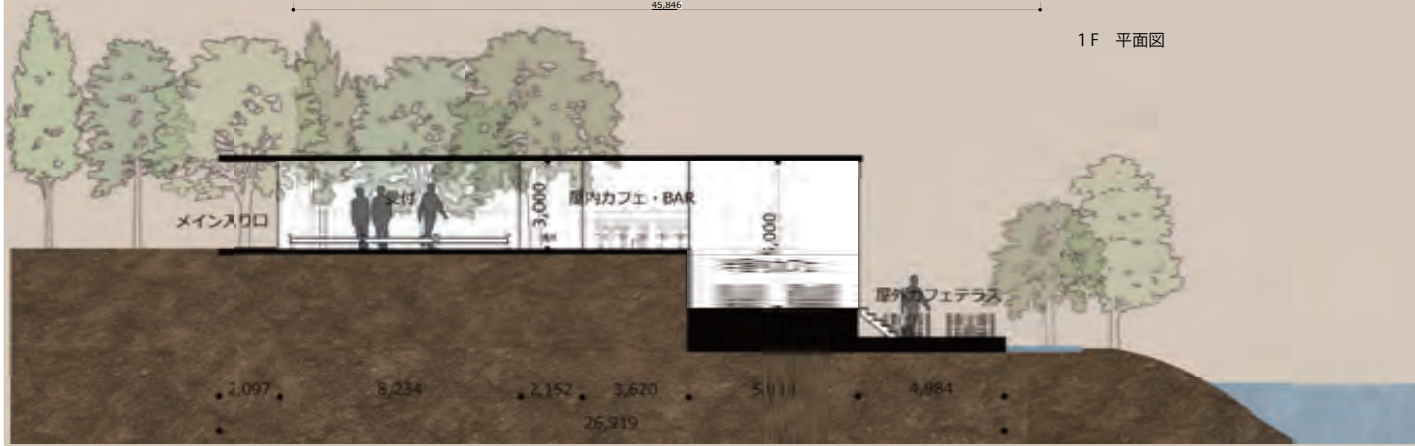
# ◎ OPEN CAFE



2F 平面図



1F 平面図



ガラス張りの店内や開放的なテラスのカフェ

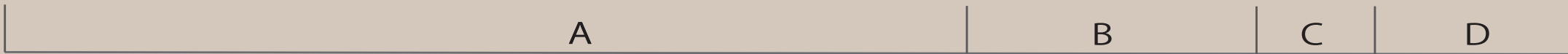


どこにいてもウォーターフロントを体感できる



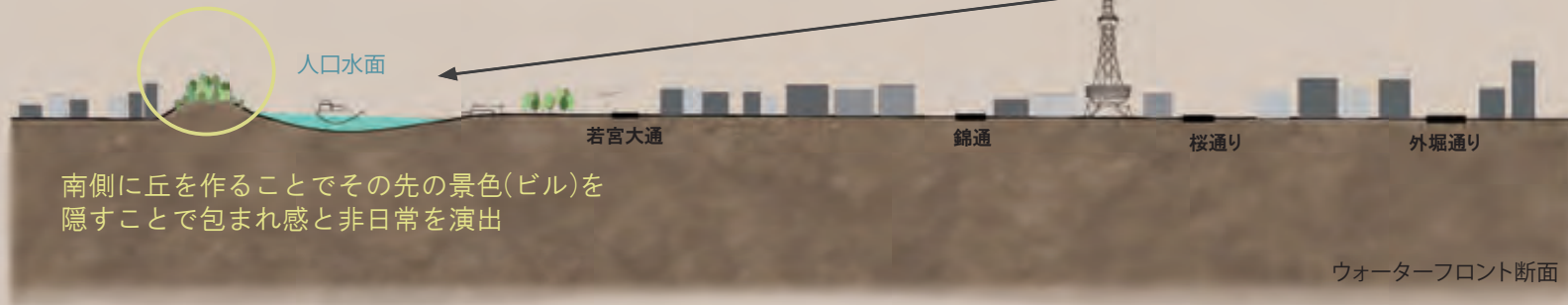
ウォーターフロントと水面のつながり





580m		
120m	280m	180m

テレビ塔展望台から見た眺め  
(かつての七里の渡しを眺める感覚)



感動エリア	賑わ
船着きコテージ ART SCENE HA LL ・五感で体感 ・心と体のリセット ・心に栄養をつける	大須観 大須商 レスト 水辺広 ・名古屋 ・人と ・名古屋



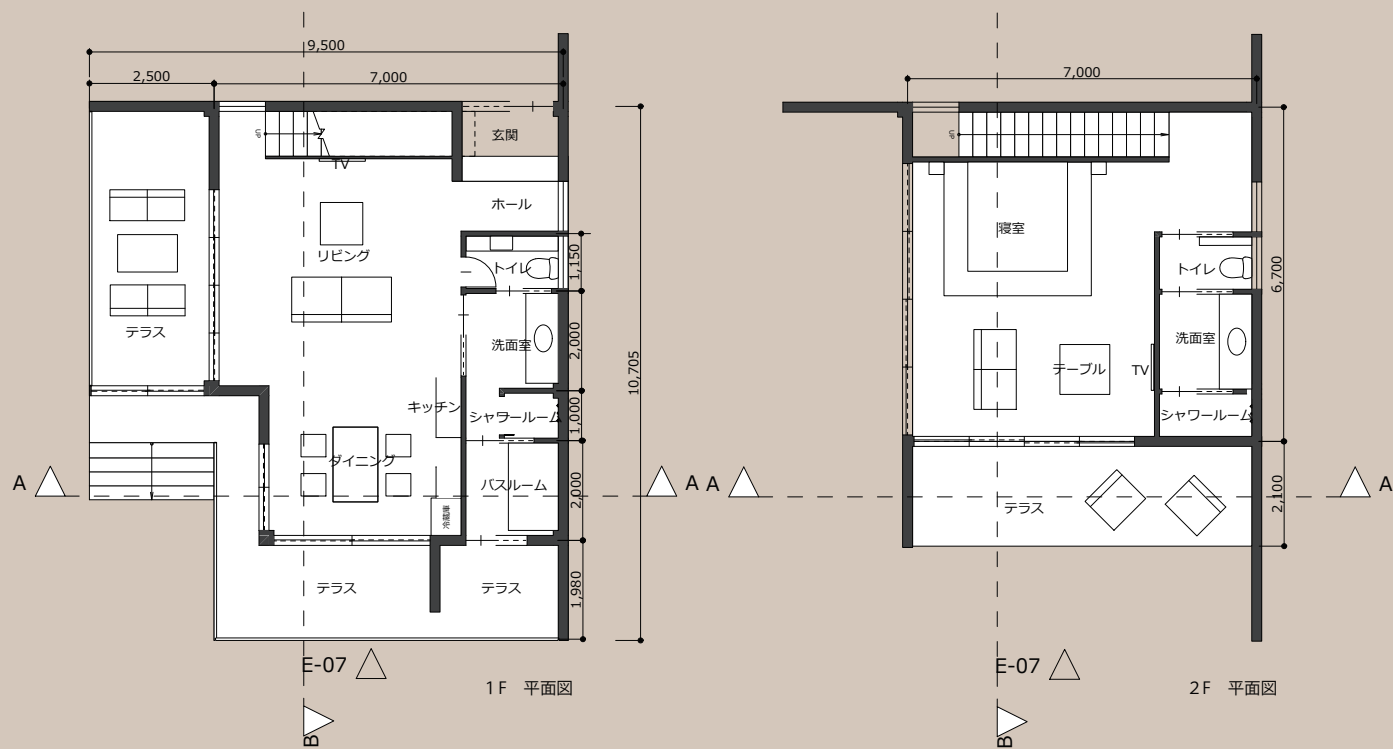


E	F	G		
---	---	---	--	--

いエリア	くつろぎエリア	水辺の憩いエリア	交流エリア	文化エリア
音 店街 ラン・カフェ 場 屋文化の体感 人の交流 屋名物を堪能でき	丘 広場 木陰のミニステージ 野外映画館 ・ジョギング ・憩いの場 ・思い思いに過ごす	親水領域 ・水と水のふれあい ・ジョギング ・サイクリング ・都市部の大きな生物の家 ・憩いの場	音楽ホール カフェ レストラン ホテル ・思い思いに過ごす ・観光客と県民市民の交流 ・世界各国の文化の交流	広場 劇場 水上美術館 図書館(鶴舞公園) 公会堂(鶴舞公園) ・学びを得る



# ② 船着きコテージ



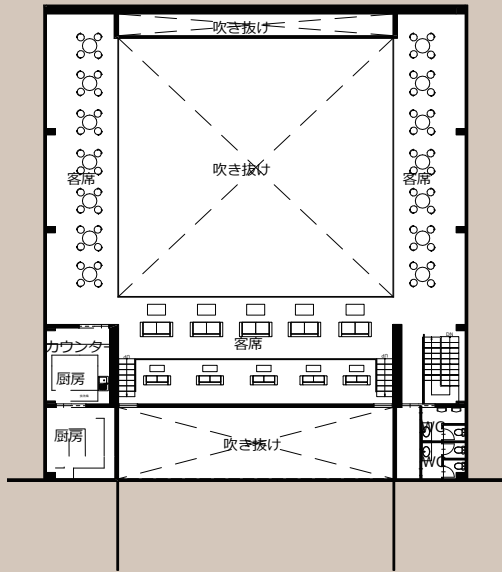
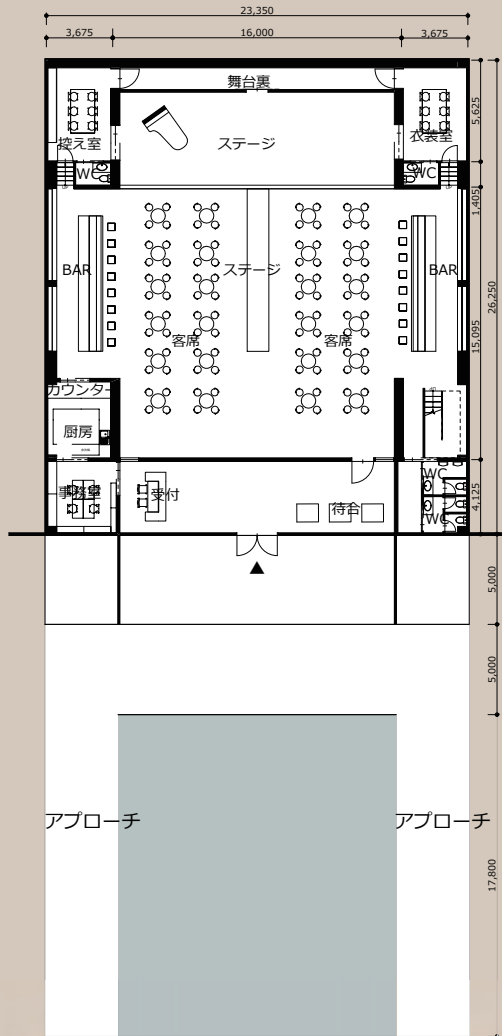
南から見た客室



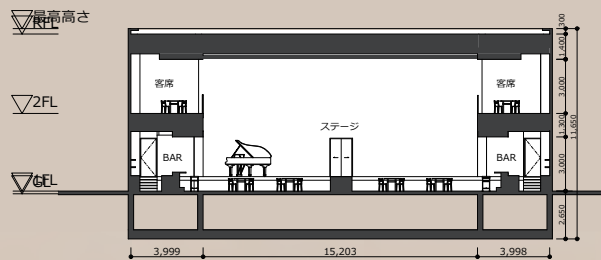
アプローチ



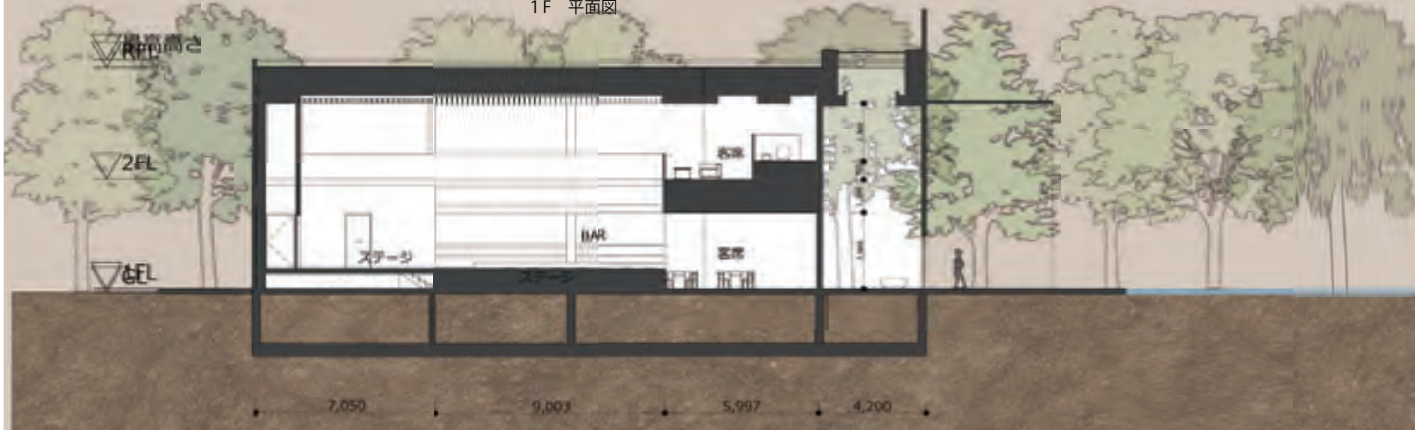
ウォーターフロントからみた船着きコテージ



2F 平面図



断面図



バーカウンターの様子



1Fと2Fの目線の交差



ウォーターフロントと水面のつながり